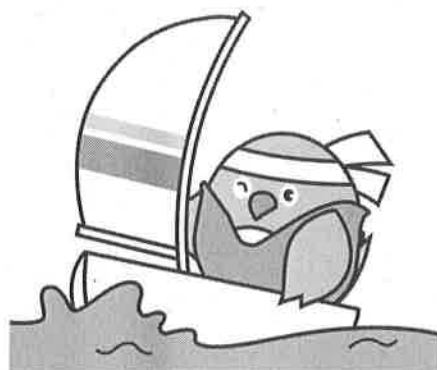


25 ヨット

事故防止のための5カ条

- 1 事前の気象情報の収集と分析を行う。(観天望気)
- 2 熱中症に配慮し、練習の合間に強制給水を行う。
- 3 救助艇を確保する。(耐候性があるもの)
- 4 通信・連絡手段を確保する。(携帯電話・無線の装備)
- 5 臨機応変な判断と行動をとる。(人命を最優先)



日頃の練習や競技会に潜む危険因子

- 1 ヨットハーバー
 - スロープ(斜路)には固着生物が生えていることが多く、非常に滑りやすい。
 - 艇の係留用金具などより転倒する。
 - 艇の運搬中に、手や足を挟んだり、マストやブームを他人にぶつけてしまう。
- 2 海上活動
 - 熱中症が微風・高温時に起こりやすい。
 - 艇の衝突が起こる。
 - 艇の転覆に巻き込まれ、溺れてしまう。
 - 落雷による感電の恐れがある。

事故防止のための安全対策

- 1 自然の中で活動するヨット競技において、事前の気象情報の収集は必須のことである。天候は急変することもあり、可能な限りスマートフォン等で局地的、リアルタイム的な情報入手に心がけなければならない。
- 2 ヨットハーバーを中心とした陸上での活動については、転倒への予防が重要であり、ヨットハーバー内では耐滑性の優れたシューズ等の着用留意させる。
- 3 整備や艇の準備を含めた陸上活動中には、装備品に身体の一部をぶつけたり、工具で怪我をすることもあるので保護具等の装着をつける習慣などの事前指導が必要である。
- 4 海上での安全対策について、ライフジャケットの常時着用は当然のこと、熱中症や日焼け対策の為、長袖のウェアと帽子の着用、定期的な水分補給は陸上活動も含めて大変有効な対策である。
- 5 救助艇には常に飲料水とともに必ずワイヤー類を切断できる工具を搭載していなければならない。
- 6 練習中もしくは競技中に横転することは珍しくないが、横転を確認した時は、安全確認(乗員の頭部が水面に出ているかの視認)を行い、必要であれば支援を行う。
- 7 万一の事故発生・天候の急変に備えて、携帯電話などで確実に陸上と連絡できる手段を確保できるように必携する。
- 8 雷警報発令中は出艇を見合せ、遠くに雷の音が聞こえたら速やかに陸上へ戻る等の配慮を行う。